

ワイヤレスLANコントローラ(WLC)からのデバッグの収集

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[デバッグ出力をローカルマシンのファイルに保存](#)

[Syslogサーバへのデバッグ出力の送信](#)

[デバッグ出力のWLCローカルファイルへの保存](#)

概要

このドキュメントでは、AireOSワイヤレスLANコントローラ(WLC)からデバッグを収集するためのさまざまな方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- ワイヤレス LAN コントローラ
- Telnet/SSH/コンソールクライアント

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のハードウェアおよびソフトウェアのバージョンに基づいています。

- AireOS WLCバージョン8.0.140.0以降
- Puttyバージョン0.70
- Syslog サーバー
- トリビアルファイル転送プロトコル(TFTP)サーバ

設定

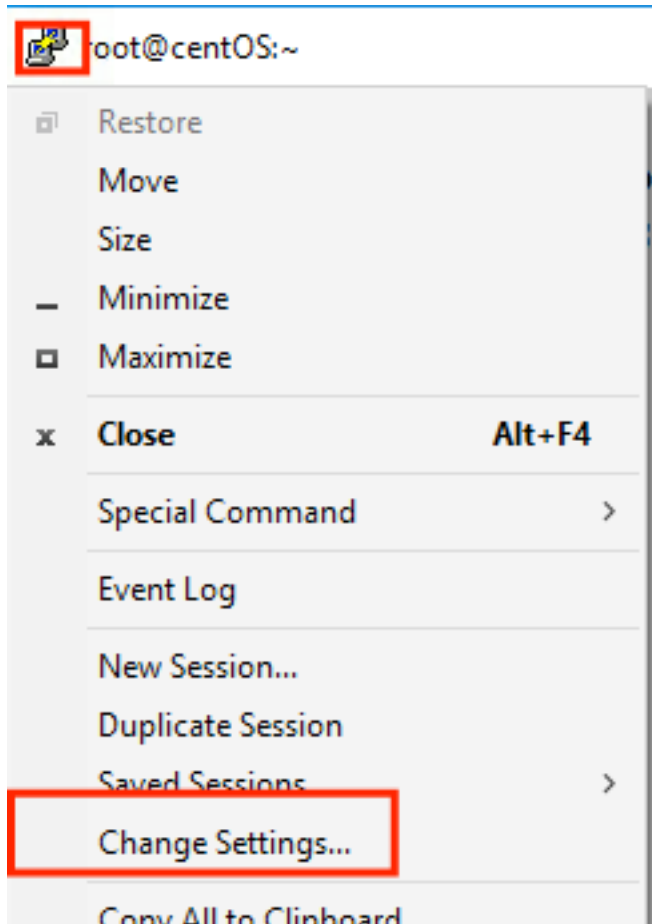
デバッグ出力をローカルマシンのファイルに保存

この方法では、ユーザがputtyを介してSSH/telnet/コンソール経由でWLCにログインし、セッションの出力をセッションの開始元マシンの.txtファイルに記録する必要があります。

ステップ1:Puttyを介してSSH/Telnet/コンソール経由でWLCへのコマンドラインインターフェイス(CLI)を開きます。

ステップ2:WLCの出力を.txtファイルに記録します。

a) puttyウィンドウの左上 (小さなコンピュータアイコン) を右クリックし、[設定の変更]を選択します。



b) [Session] > [Logging] > [Session logging]に移動します。[All session output]を選択して[Browse]を選択し、ファイルが保存されているパスとファイルの名前を選択します。完了したら、[適用]を選択します。

Category:

- Session
 - Logging
- Terminal
 - Keyboard
 - Bell
 - Features
- Window
 - Appearance
 - Behaviour
 - Translation
 - Selection
 - Colours
- Connection
 - SSH

Options controlling session logging

Session logging:

None Printable output

All session output SSH packets

SSH packets and raw data

Log file name:

name of file|log

(Log file name can contain &Y, &M, &D for date, &T for time, &H for host name, and &P for port number)

What to do if the log file already exists:

Always overwrite it

Always append to the end of it

Ask the user every time

Flush log file frequently

Options specific to SSH packet logging

Omit known password fields

Omit session data

ステップ3:CLIセッションがタイムアウトして終了していないことを確認します。これは接続のタイプによって異なり、次のコマンドを使用して行われます。

SSH/Telnetセッション :

```
>config session timeout 0
```

コンソールセッション :

```
>config serial timeout 0
```

ステップ4 : 必要なデバッグ (debug clientなど) を有効にします。

```
>debug client aa:bb:cc:dd:ee:ff
```

```
>debug dhcp message enable
```

```
>debug aaa events enable
```

ステップ5 : 目的のイベントが発生したら、デバッグを無効にします。

```
>debug disable-all
```

ステップ6：ステップ2で指定したパスからファイルを収集します。

Syslogサーバへのデバッグ出力の送信

このメソッドは、デバッグ出力をsyslogサーバに送信します。debugコマンドを実行するセッションフォームは開いたままにする必要があります。開いていない場合、WLCはデバッグ出力のsyslogサーバへの送信を停止します。

ヒント：回避策として、コンソール経由でWLCに接続できます。コンソールセッションが終了するのを避けるために、目的のデバッグを有効にし、コンピュータをコンソールポートから抜き、データがsyslogサーバに送られるまで待ちます。このように、コンソールセッションはアクティブなままです。

注：この機能はAireOSバージョン5.1以降で使用できます。

ステップ1:Putty経由でSSH/Telnet/コンソール経由でWLCへのCLIセッションを開きます。

ステップ2:CLIセッションがタイムアウトして終了していないことを確認します。

SSH/Telnetセッション：

```
>config session timeout 0
```

コンソールセッション：

```
>config serial timeout 0
```

ステップ3：デバッグ出力をsyslogサーバに送信するようにWLCを設定します。

```
>config logging syslog level debugging
```

```
>config logging debug syslog enable
```

```
>config logging syslog host <syslog's-IP-address>
```

ステップ4：必要なデバッグ (debug clientなど) を有効にします。

```
>debug client aa:bb:cc:dd:ee:ff
```

```
>debug dhcp message enable
```

```
>debug aaa events enable
```

ステップ5：目的のイベントが発生したら、デバッグを無効にします。

```
>debug disable-all
```

ステップ6:syslogサーバからファイルを収集します。

デバッグ出力のWLCローカルファイルへの保存

この方法では、デバッグ出力をWLCにローカルに保存されたファイルに保存します。WLCがデバッグ出力をローカルファイルに保存できない場合、debugコマンドを発行するセッションは開いたままにする必要があります。

ヒント：回避策として、コンソール経由でWLCに接続できます。コンソールセッションが終了するのを避けるために、目的のデバッグを有効にし、コンピュータをコンソールポートから抜き、データがローカルファイルに保存されるまで待ちます。このように、コンソールセッションはアクティブなままです。

注:この機能はAireOSバージョン5.1以降で使用できます。

注：デバッグ出力の設定は、ローカルファイルに保存され、ファイル自体はWLCのリポート後に削除されます。

ステップ1:Putty経由でSSH/Telnet/コンソール経由でWLCへのCLIセッションを開きます。

ステップ2:CLIセッションがタイムアウトして終了していないことを確認します。

SSH/Telnetセッション：

```
>config session timeout 0  
コンソールセッション：
```

```
>config serial timeout 0
```

ステップ3：デバッグ出力をローカルファイルに保存するようにWLCを設定します。

```
>config logging debug file enable
```

ステップ4：必要なデバッグ (debug clientなど) を有効にします。

```
>debug client aa:bb:cc:dd:ee:ff  
>debug dhcp message enable  
>debug aaa events enable
```

ステップ5：目的のイベントが発生したら、デバッグを無効にします。

```
>debug disable-all
```

ステップ6:WLCから情報を収集します。

ステップ7：デバッグファイルを収集するには、CLIまたはグラフィカルユーザインターフェイス (GUI)を使用して、WLCからTFTP/FTPサーバにアップロードする必要があります。

CLI：

```
(Cisco Controller) >transfer upload datatype debug-file  
(Cisco Controller) >transfer upload serverip 10.10.10.10  
(Cisco Controller) >transfer upload path /  
(Cisco Controller) >transfer upload mode tftp  
(Cisco Controller) >transfer upload filename debug-output-name.txt  
(Cisco Controller) >transfer upload start
```

```
Mode..... TFTP
TFTP Server IP..... 10.10.10.10
TFTP Path..... /
TFTP Filename..... debug-output-name.txt
Data Type..... Debug File
```

Are you sure you want to start? (y/N) y

GUI :

The screenshot shows the Cisco GUI interface for the 'Commands' section. The 'Upload file from Controller' form is highlighted with red boxes. The form includes the following fields:

- File Type:** Debug-File
- Transfer Mode:** TFTP
- Server Details:**
 - IP Address(Ipv4/Ipv6): 10.10.10.10
 - File Path: /
 - File Name: debug-file-name.txt

The left sidebar shows the 'Upload File' option selected under the 'Commands' menu.

いずれの方法でも、同じ出力が生成されます。ただし、コンソールの出力はTelnetやSSHセッションよりもはるかに低い速度で表示されますが、ネットワークの到達不能の後でも出力を提供できることを考慮することが重要です。